

## 為替週間展望 = ドル円は底堅いながらも上値を抑えられやすい動きか

[ 1月26日からの1週間の展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		1月19日～1月23日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	157.87	159.23(23)	157.37(23)	158.27	+0.15
ユーロ・ドル	1.1590	1.1768(20)	1.1573(19)	1.1738	+0.0140

  

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	53,846.87	-89.30	日本10年債利回り	2.257	+0.067
ダウ平均株価	49,384.01	+24.68	米10年債利回り	4.245	+0.022

< 来週の主要経済統計等 >

- 26日 日本11月景気動向指数改定値  
※党首討論会 (日本記者クラブ)  
独1月ifo景況感指数  
米11月耐久財受注速報値
- 27日 米11月住宅価格指数、米11月S&Pケースシラー住宅価格指数  
米11月消費者信頼感指数
- 28日 日銀金融政策決定会合議事要旨 (12月18～19日開催分)  
豪12月消費者物価指数、豪第4四半期消費者物価指数  
カナダ銀行 (BOC) 政策金利  
米連邦公開市場委員会 (FOMC、27～28日)  
パウエルFRB議長記者会見
- 29日 NZ12月貿易収支  
カナダ11月貿易収支  
米第3四半期非農業部門労働生産性指数  
米新規失業保険申請件数、米11月貿易収支  
米11月製造業受注
- 30日 日本12月雇用統計、日本12月有効求人倍率  
日本12月小売業販売額、日本12月鉱工業生産指数  
豪第4四半期生産者物価指数  
スイス1月KOF先行指数  
独11月雇用統計  
ユーロ圏第4四半期GDP速報値、ユーロ圏12月雇用統計  
独11月消費者物価指数速報値  
カナダ11月GDP  
米12月生産者物価指数  
米11月シカゴ購買部協会景気指数

【前回のレビュー】ドル円は介入警戒感から上値は抑えられやすい展開が続くとみられる。ただ、円売りが続きやすい地合いとなって、底堅い動きが継続するとした。

【ドルも円も政治動向に左右される展開に】

トランプ米大統領がグリーンランドの領有に意欲を示して、反対する各国へ追加関税を課すと表明したことで、欧州各国が対抗措置として報復措置を表明した。市場では今後に対する不透明感が高まるなかで「米国売り」(米株安・米債券安、ドル安)の構図が強まった。

しかし、ダボス会議でのトランプ演説をきっかけに米国売りは収束の方向に向かっ

た。トランプ米大統領は武力行使を行わないと表明した。さらに北大西洋条約機構（NATO）のルッテ事務総長と会談して、グリーンランドの扱いに関する将来的な枠組みで合意したため、欧州各国への追加関税を見送るとした。

円相場に関しては「高市トレード」が中心となった。19日に高市首相が解散・総選挙日程を発表した。与野党いずれも消費減税を打ち出す中、日本の財政悪化への警戒感が強まった。日本の長期国債が売られ（利回りは上昇）、日経平均は下げが続いた。22日以降は日経平均が上昇に転じた。

ドル円は19日と20日に157.40台まで下落したものの、その後は上昇しており、22日に一時158.80台まで上値を伸ばした。グリーンランドを巡る問題で、トランプ米大統領が武力行使は行わない、関税措置を撤回するなどとしたことがドルの買い安心感につながった。

22～23日の日銀金融政策決定会合では、政策金利は据え置きとなった。展望レポートでは2026年度の実質GDP見通しと消費者物価見通し（除く生鮮食品）が前回から引き上げられた。ただ、市場への影響は限定的だった。

植田総裁の記者会見では、「見通し期間後半には物価目標とおおむね整合的な水準で推移」「現在の実質金利は極めて低い水準」「見通し実現なら政策金利引き上げ、金融緩和度合いを調整していく」と述べたが従来の主張と同じような内容となった。

為替の動向に関しては、「円安水準についての具体的なコメントは控える」「円安に伴って輸入価格が上昇し、当面のインフレ率の押し上げ要因」「為替動向、しっかり見ていきたい」と述べた。長期金利に関しては、「長期金利、速いスピードで上昇してきていると認識」「例外的な動きあれば機動的に対応する」「長期金利については政府と緊密に連携し、しっかり見ていく」としている。

円安是正に向けた強いメッセージはなく、従来とほぼ同様の主張となったことから、円売りの動きが加速して、159円台に乗せている。ただ、その後、157.30台まで急落した。その後は158円台まで値を戻した。

#### 【FOMCでは政策金利は据え置きか】

1月26日の週に予定される日米の経済指標やイベントは、26日に日本11月景気動向指数改定値、米11月耐久財受注速報値、27日に米11月住宅価格指数、11月S&Pケーススラー住宅価格指数、米11月消費者信頼感指数、28日に米連邦公開市場委員会（FOMC、27～28日）、パウエルFRB議長記者会見、29日に米新規失業保険申請件数、米11月貿易収支、米11月製造業受注、30日に日本12月雇用統計、日本12月有効求人倍率、日本12月小売業販売額、日本12月鉱工業生産指数、米12月生産者物価指数、米11月シカゴ購買部協会景気指数などがある。

最大の注目材料は27～28日に開催されるFOMCとなる。前回12月に0.25%の利下げを決定しており、今回は先月の利下げの影響を見極めている状況であり、政策金利は据え置きとなる可能性が高い。声明やパウエル議長の記者会見で、景気や物価に関する認識がどのように示されるかが注目される。米国ではインフレ率は落ち着きを見せており、雇用は指標ごとにまちまちながら底堅い結果を見せている。なお、市場では今年2回程度の利下げが織り込まれている。

FOMC内部では、利下げに積極的なハト派と利下げに慎重なタカ派の意見対立が目立っており、見解が分かれている。今回はどのような見解の相違が示されるかが注目される。FOMC内部ではインフレを警戒する声も根強く、利下げに前向きな参加者ばかりではない。

グリーンランドを巡るドル売りの動きが一服したことで、ドル円は底堅い動きを見せることとなろう。植田日銀総裁からは円安是正に向けた強いメッセージはなく、従来と似たような内容が繰り返されたことで、一段の円安が進行する可能性がある。ただ、円安の進行には日本の金融当局から円安けん制発言が出てくるとみられる。160円、あるいはここを上抜けてくると介入警戒感から上値を抑えられやすい展開となりそうだ。こうした中、底堅いながらも上値を抑えられやすい動きが続くとみられる。目先の予想

レンジは157.00～161.00円となる。

※米政府機関再開に伴い米経済指標の発表日が変更・追加される可能性がある。

【ユーロドルはこれまでの下げの反動高か】

ユーロドルは1.1570台まで下落したものの、欧州景気の底入れ観測や行き過ぎたドル売りの修正から上昇に転じている。20日には1.1760台まで上値を伸ばしている。その後もみ合いながら堅調に推移している。これまで長らく下げが続いてきた反動高となっており、戻り歩調で推移するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1600～1.1900ドルとなる。

グリーンランドを巡るドル売りの動きから、ポンドドルは20日には1.3490台まで上昇した。その後はドル売りが一服したものの、21日に発表された12月の英消費者物価指数が市場予想を上回る強さとなり、ポンドドルは底堅い動きを見せた。その後、23日には1.35ドル近辺まで上昇している。堅調な地合いを維持して上値を追求展開となりそうだ。目先の予想レンジは1.3400～1.3650ドルとなる。

今後の日米以外の経済指標としては、26日に独1月I F O景況感指数28日に豪12月消費者物価指数、豪第4四半期消費者物価指数、カナダ銀行（B O C）政策金利、29日にN Z 12月貿易収支、カナダ11月貿易収支、30日に豪第4四半期生産者物価指数、スイス1月K O F先行指数、独1月雇用統計、ユーロ圏第4四半期G D P速報値、ユーロ圏12月雇用統計、独1月消費者物価指数速報値、カナダ11月G D Pなどが予定されている。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

#### <著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。